

科目名	コミュニケーション心理学特講	担当者	マナベ 眞邊 カズチカ 一近	期間	通年	単位数	4
-----	----------------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>コミュニケーションを円滑に行うためには、コミュニケーションスキルの獲得が必要です。コミュニケーション心理学特講では、コミュニケーションスキルに必要な知覚・発声・認知過程とその発達について学習した後、コミュニケーションスキルの訓練方法・コミュニケーション手段の改善策など具体的な方法論についての学習を目的とします。</p>		
到達目標	<p>以下の点を到達目標とします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションの基礎になる音声知覚と発声の進化と発達の習得 2) 言語の基礎となる認知機能の進化と発達の理解 3) 発話の発達の理解 4) 各種コミュニケーションスキル訓練の理解 5) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善方法の習得 		
学修方法	<p>まずは、課題に従って基本教材とレポート提出システムに掲載されている資料等を読み、草稿を仕上げます。「レポート提出のためのチェック項目」に従って、自身のレポートをチェックし、不足している点について追記の上、草稿を提出します。これに対して、修正・追記が必要かどうか教員から指示がありますので、それに従って、再度、修正・追記の上草稿を提出します。これを繰り返して、最終稿に仕上げていきます。これらの教員とのやり取りが到達目標を達成するうえで大変重要になります。</p>		
スケジュール	<p>以下のスケジュールで学習を行います。</p> <p>前期：コミュニケーションに関連する知覚と発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションに関連する知覚の理解 2) コミュニケーションの発達の理解 <p>後期：コミュニケーションスキルと行動分析学</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) コミュニケーションスキルと訓練方法の理解 2) 行動分析学に基づいたコミュニケーションの改善案の考案 <p>心理学の基礎から応用まで学習は多岐にわたります。一回の草稿提出ですべて学習するのは困難です。早めに草稿を提出し、教員の指導を受けながら、学習を進めていきます。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	<p>下記の点について評価します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1)留意点に従って、課題について述べているかどうか？ 2)レポート提出システム (manaba) に掲載された資料を参考に書かれているかどうか？ 3)草稿の提出とそれに対する教員のコメントに対して十分な回答がなされているかどうか？ 4)「レポート提出のためのチェック項目」に従って書かれているかどうか？
	平常評価	%	
履修者への要望	<p>レポートシステムにも資料が添付されていますので、必ずダウンロードして参考にして下さい。他の課題に添付されている資料も参考になりますので、全ての資料にいったん目を通してから、レポートを書き始めて下さい。また、レポート提出のためにチェック項目にチェックを入れてから提出してください。また、「レポート提出のためのチェック項目」を参考に、自身のレポートがこれらの項目を満たしているかどうかチェックし、満たしていなければ満たしたうえで項目にチェックし、さらにチェックシートをレポートの最初に加え、提出して下さい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 深田博己編著 教材名： 『コミュニケーション心理学：心理学的コミュニケーション論への招待』（北大路書房，1999年）ISBN:978-4-76-282160-8 2,500円+税</p> <p>著者名： 日本音響学会編 教材名： 『音の何でも小事典：脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』（講談社，1996年）ISBN:978-4-06-257150-0 1,100円+税</p> <p>著者名： 正高信夫著 教材名： 『0歳児がことばを獲得するとき：行動学からのアプローチ』（中央公論新社，1993年）ISBN:978-4-12-101136-7 660円+税</p> <p>第1図書は、コミュニケーション心理学を理解するのに必要な心理学の基礎的な知識を網羅的に解説した入門書である。 第2図書では、音声知覚の概説がなされている。 第3図書では、コミュニケーションの基礎といわれる乳児の母親とのコミュニケーションの解説がなされている。</p>
参考図書	<p>深田博己『インターパーソナルコミュニケーション：対人コミュニケーションの心理学』（北大路書房，1998年）ISBN:978-4-76-282103-5 2,500円+税</p> <p>齊藤勇編『対人社会心理学重要研究集：対人コミュニケーションの心理』（誠信書房，1987年）ISBN:978-4-41-432403-7 2,500円+税</p> <p>植村勝彦，松本青也，藤井政志『コミュニケーション学入門：心理・言語・ビジネス』（ナカニシヤ出版，2000年）ISBN:978-4-88-848536-4 2,400円+税</p> <p>坂元章編『インターネットの心理学：教育・臨床・組織における利用のために』（学文社，2000年）ISBN:978-4-76-200964-8 1,900円+税</p>
履修上のポイント	<p>コミュニケーション心理学を理解するためには、心理学の幅広い基礎知識が必要です。出来るだけ、基本教材でとりあげている各分野の心理学にふれるようにして下さい。レポートシステムに参考資料が掲載されていますので、必ず読むようにして下さい。</p>
レポート課題 1	<p>コミュニケーションに関係する外的(物理的)世界と知覚(心理的)世界のズレについて述べよ。 留意点：コミュニケーションに関係する聴覚や視覚およびその相互作用などによって生じる現象についてまとめてください。</p>
レポート課題 2	<p>コミュニケーションの発達過程について述べよ。 留意点：乳児・幼児・児童と発達する過程で、母親・家族・仲間とどのような相互作用を行いながら発達していくかについてまとめて下さい。このとき、どのような要因が「発達」を促進するか記述して下さい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 島宗理 教材名： 『パフォーマンス・マネジメント』（米田出版，2000年）ISBN:978-4-94-655307-3 1,700円+税</p> <p>著者名： 島宗理 教材名： 『インストラクショナルデザイン』（米田出版，2004年）ISBN:978-4-94-655319-6 2,000円+税</p> <p>第1図書は、行動分析学に基づいたコミュニケーションスキルの向上法を具体的に解説した入門書である。部下のマネジメント・学校・病院・組織のマネジメントなどの具体例を学びながら、スキル向上の基本的な方法論が学べるよう構成されている。 第2図書は、「教えること」に特化した行動分析学の応用をわかりやすく説明している。行動分析学の実践場面での具体例を学ぶことが出来る。</p>
参考図書	<p>アルバート・トルートマン著（佐久間徹・谷晋二監訳）『はじめての応用行動分析』（二瓶社，1992年）ISBN:978-4-93-119915-6 3,059円+税</p> <p>相川充著『人づきあいの技術：社会的スキルの心理学』（サイエンス社，2000年）ISBN:978-4-78-190966-0 1,650円+税</p> <p>R・ネルソン・ジョーンズ著（相川充訳）『思いやりの人間関係スキル：一人でも出来るトレーニング』（誠信書房，1993年）ISBN:978-4-41-430274-5 3,800円+税</p> <p>菊池章夫，堀毛一也『社会的スキルの心理学』（川島書店，1994年）ISBN:978-4-76-100527-6 3,200円+税</p>
履修上のポイント	<p>第1図書は、最初の章から順番に読んでいくことを勧める。また、参考図書の『はじめての応用行動分析』と読み合わせると理解が進むだろう。第2図書は、一般向けにわかりやすく書かれているが、本書の中でいわれていることの根拠を理解する上で、上記の図書を読んだ後で読むと良いだろう。</p>
レポート課題 1	<p>コミュニケーションスキルおよびコミュニケーションスキル訓練にはどんなものがあるかまとめよ。 留意点：コミュニケーションの過程を概説した後、個々のスキルと訓練について述べて下さい。前期の基本教材も参考にして下さい。</p>
レポート課題 2	<p>自分の職場あるいは家庭の人間関係やコミュニケーションでなにか問題を感じている事柄をとりあげ、ABC分析に基づいた改善策を考察せよ。 留意点：自分が考えた改善策の基礎となっている行動分析学の知見・方法論が具体的にわかるように述べて下さい。ただし、企業名や個人名が特定されないように注意すること。もし個人的な問題が無ければ、地域や市町村の問題でも構いません。</p>